

第 4 回海上分科会の議事概要

第 4 回江田島市公共交通協議会（海上分科会）

日時：平成 22 年 2 月 12 日（金）午後 2 時 30 分～4 時

場所：江田島市役所 2 階会議室

内容：江田島市地域公共交通総合連携計画(案)について

■広島呉道路（クレアライン）無料化の影響について

- ・ クレアラインが無料化の対象になるとは想定していなかった。
- ・ 実際に無料化になってから、数字で影響を把握し、対策を考えて頂きたい。会社として継続が困難となる場合もある。時代の流れとして仕方がないのかもしれないが、道路だけが受益者負担にならないのは納得できない。
- ・ 陸路で江田島まで来たが、音戸大橋から所要時間は約 30 分であった。先が見えない状況であり、非常に不安である。航路事業者が、横のつながりで経営努力をすべき。
- ・ フェリーは、同乗者が何人乗るかによって道路へ逃げる割合は変わってくる。どのような割引を実施するかである。今後、あらゆる方策とユニークな考え方が必要になる。
- ・ 無料化の前後に早瀬大橋で交通量をカウントすべきではないか。
- ・ 利用者の動向は予測がつかない。どうすれば良いかもわからない状況。安易な値下げはすべきではない。ますます自分達の首を絞めることになる。無料化開始と同時に、市で対策を立てるべき。
- ・ クレアラインが対象に入ったのは驚きであった。割引が始まった時点に遡り、影響をしっかりと調査して頂きたいと国にお願いしたところである。道路については、どの程度シフトするのかをしっかりと把握すべき。
- ・ 危機的な状況であるが、どこに訴えて良いのかもわからない状況である。旅客船協会としては、運輸局にお願いに行っている。国の体制がまだ良くわからない状況にある。国が調査するのは当然であるが、協議会も影響を把握するため、事業を計画に入れておくべきである。市としてやるか、協議会としてやるか。市では国へのアピールをお願いしたい。
- ・ 最も恐れるのは、連携計画ができて具体的に進めていく中、クレアラインの無料化がどの程度影響するのか。プランを立てても事業者の経営が立ち行かなくなることである。
- ・ 現状として、東側の航路は西側ほどひどい状況ではない。ただ、クレアラインの無料化で、中期に書かれている事業を前倒して実施することがあっても良いのではないか。例えば、市による船のリースバックなど。各社が本当に苦しくなった際に、何とかできるような体制を作っておく必要がある。
- ・ クレアラインの無料化に対して、料金割引等で対応することに対して、総合事業の補助は出るのか。高速道路無料化実験に対抗するための実証実験にお金は出ないのか。車両の同乗者割引など全市的に利用促進という意味合いで。

- ・ 航路の合理化・効率化について市としては、西能美だけでなく、もう少し全市的に考えていきたいという思いがある。
- ・ 第二音戸大橋架橋の影響は、クレアライン無料化の影響より大きいように思う。第二音戸大橋の影響が分かれば、東側の航路の望ましい姿もおのずと見えてくるように思う。
- ・ 国の調査は、だれがどのようにするのか。市として把握しておく必要がある。どの程度までは国の責任でやるのか、はっきりしておくべき。
- ・ 本四航路は、運輸局主導でアンケート調査を実施している。それと同じように各航路の調査をすべき。

■西能美航路の合理化・効率化について

- ・ 中町・高田～宇品航路の高速船を大須に寄港させるのが良いのではないかと。運輸局などとの調整も必要であろうが。
- ・ 大須港については、船での寄航が良いのか、バスを走らせるのが良いのか、経費の試算に基づいて検討すべきであろう。
- ・ 西能美航路の実証運航は、大須とともに考えるべきではないか。
- ・ バスでどこまでできるかは、バス事業者に相談する必要がある。
- ・ 大須は欠航率が高いため、陸上交通の整備が地元は最も喜ぶように思う。
- ・ 今回の施策（三高へのフェリー統合）でどのような転換が起こるか、本当に経営改善になってやっていけるのか、少なくとも市企業局は、便毎のデータを出すべき。
- ・ 本当にこの実証実験案でいけるのかどうか、企業局と芸備でよく精査して頂きたい。能美地区の住民の意見も重要であるが、市としてどうしたいのか、政治決断をすべきである。
- ・ 赤字のフェリーを民間がやり、黒字の高速船を市がやるのは時代に逆行している。公設民営など、これからの民間と公との関わり方について検討すべきだ。